

(広報資料)

平成30年度 交通事業予算概要

平成30年2月9日
京都市交通局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 予算概要

○ 混雑緩和など喫緊の課題に対応するとともに、市バス・地下鉄中期経営方針に基づき更なる利便性向上を推進

- 市バスの混雑緩和や地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充、安全運行の推進、周辺地域も含めた魅力あるバス待ち環境の創出など、更なるお客様の利便性向上を図り、「市民の足」としての役割をしっかりと果たす予算として編成

○ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた取組により、1日当たりお客様数は36万8千人

- バス一日券等の価格の見直しによりお客様数の減少が見込まれるものの、混雑緩和に向けた路線・ダイヤの充実や、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」等の取組により、前年度予算に比べ、6千人の増加を見込み、運送収益は、前年度比11億円の増収

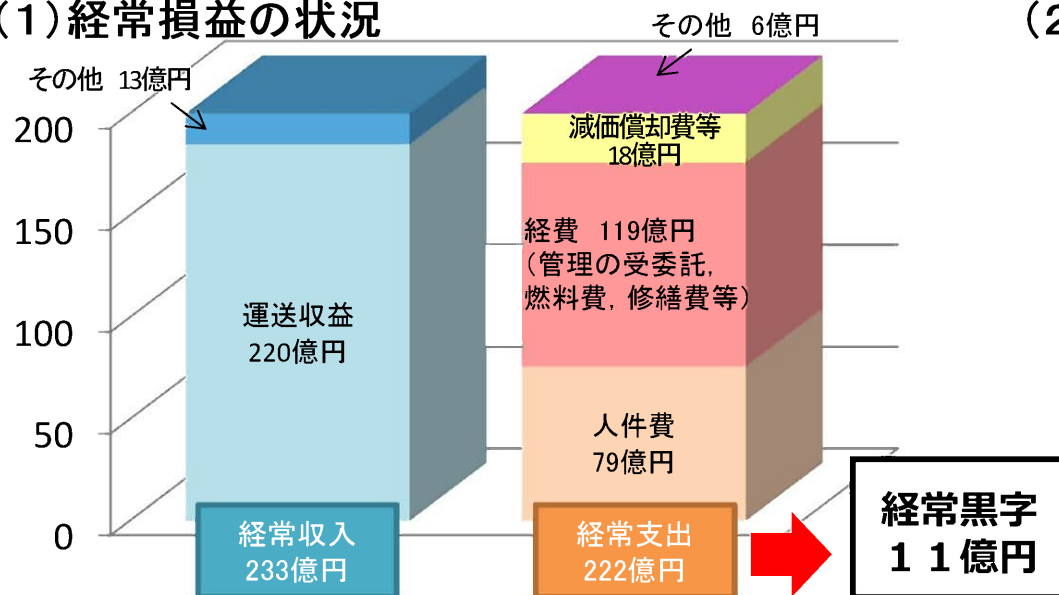
○ 経常損益は、11億円の黒字を確保

- 市バスの利便性の向上と混雑緩和に向けた取組の推進などにより、11億円の経常黒字を確保

○ 利益剰余金を市バスの将来負担に備えるとともに、地下鉄会計を支援するために活用

- 利益剰余金(28年度確定:26億87百万円)は、今後の車両や設備の更新に備えるため建設改良積立金に積み立てる(12億1千万円)とともに、地下鉄会計の経営健全化を財政面から支援するために出資(13億43百万円)
- これまでからの出資に対して一般会計へ配当(1億34百万円)

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	30年度予算	29年度予算	差引増△減
在籍車両数	818両	808両	10両
走行キロ数 〔1日平均〕	87.3km	86.5km	0.8km
旅客数 〔1日平均〕	368千人	362千人	6千人
経常損益	11億円	7億円	4億円
利益剰余金 (うち処分方針確定済額) (うち当年度予定処分額)	90億円 (34億円) (27億円)	58億円 (10億円) (24億円)	32億円 (24億円) (3億円)
年度末企業債残高	51億円	48億円	3億円

2 予算の重点

(1) 路線・ダイヤの充実(30年3月実施)

ア 通勤・通学系統等の増便

(ア) 朝ラッシュ時間帯の増便 西大路通, 四条通

(イ) 大学への通学輸送の充実

立命館大学, 京都産業大学, 佛教大学, 京都大学・京大病院

イ 地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充

増便: 北区西賀茂北部, 西京区福西学区, 西京区松陽学区

新たな運行: 上京区仁和学区 9~10回/日(毎日)

ウ より便利にご利用いただけるダイヤ編成

(ア) 最終バスの時刻繰下げなど夜間時間帯の運行充実

(イ) 地下鉄をはじめとする鉄道との乗継利便性向上

(2) 混雑対策の推進

ア JR西日本等の民間事業者との連携により, 関西国際空港等から入洛されるお客様に対し, キャリーバッグ等を配送する手ぶら観光カウンターや「地下鉄・バス一日券」等の価格の見直しに合わせた地下鉄も上手に利用した観光をPR【新規】

バス一日券: 500→600円 地下鉄・バス一日券: 1200→900円(二日券: 2000→1700円)

イ “おもてなしコンシェルジュ”の活動期間を充実し, 市バスの乗換案内のほか, 「手ぶら観光」や「地下鉄も上手に利用した観光」をPR【充実】 11月の平日にも拡充

ウ 「前乗り後降り」方式の導入(洛バス100号系統)【新規】

エ 京都駅へ向かわれるお客様に対し, 市バスから地下鉄へ無料で乗り換えられる「振替輸送」の拡充

東山駅(東山通周辺からのお客様)【充実】: 9日間 → 18日間
北大路駅(金閣寺周辺からのお客様)【新規】: — → 18日間

オ 通勤・通学系統等の路線・ダイヤの充実【再掲】

カ 多客輸送に対応できるラッシュ型車両の導入(44両)

キ 扉開閉時に注意喚起する案内放送の多言語化【新規】

(3) 魅力あるバス待ち環境の創出

ア 周辺部等におけるバス停上屋の整備など(45箇所)

イ ソーラー式バス停照明の設置(150箇所)

ウ 地域の皆様や事業者等の方々のご協力によるバス待ち空間「バスの駅」の整備(10箇所)

エ インターネットを活用したバス接近表示器の設置(19箇所)

オ ベンチの整備推進(40箇所程度)

カ 京都駅前バスターミナルBのりばにドライ型ミスト装置の設置【充実】

(4) 安全運行の推進等

ア 歩行者等に対するバスの接近をやさしい音声やメロディでお知らせする注意喚起装置の設置【新規】

イ 夜間乗降時の転倒事故を抑制するため乗降口灯をLED化【新規】

ウ 安全運転訓練車を活用し, 車内転倒や接触等による事故防止に向けた研修を実施【充実】

エ 扉開閉時に注意喚起する案内放送の多言語化【再掲・新規】

オ 稲荷大社前バス停(北行)にバス待ちスペースを整備し, 歩行者の安全性を確保【新規】

(5) 多様なお客様サービスの拡充

割引額
市バス⇄地下鉄 60円→120円
市バス⇄市バス 90円→120円

ア トラフィカ京カードの乗継割引額の拡充【新規】

イ 障害のある方や高齢の方などすべてのお客様に快適にご利用いただけるよう交通サポートマネージャーの資格を有する運転士を養成【新規】

ウ 外国人観光客に対応するため市バス・地下鉄案内所に英語を話せるスタッフを常駐 京都駅前(2人), コトカ京都(2人), 烏丸御池(1人), 北大路(1人)

エ 見やすいフルカラーLED式行先表示器の導入【新規】

(6) 増収増客の取組や将来を見据えた計画の策定等

ア 写真展など「明治150年」関連イベント, 市バス90周年や民間事業者等と連携したイベントの開催による増収増客【新規】

イ 今後10年間の新たな「経営ビジョン」策定

ウ 大型二種免許未取得者を対象とした市バス運転士の新たな採用方式の導入【新規】

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		30年度予算(A)		29年度予算(B)		差引増△減(A－B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	230	71	219	67	11	04
	う ち運 送 収 益	220	30	208	97	11	33
	営 業 外 収 益	2	39	2	33		6
	収 入 計	233	10	222	00	11	10
	営 業 費 用	215	56	208	90	6	66
	う ち人 件 費	79	13	78	30		83
	う ち経費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	118	80	115	17	3	63
	う ち減 価 償 却 費 等	17	63	15	43	2	20
	営 業 外 費 用	6	63	6	21		42
	支 出 計	222	19	215	11	7	08
差 引		10	91	6	89	4	02
純	損 益	10	91	6	89	4	02
利	益 剰 余 金	89	79	57	84	31	95
	(う ち処 分 方 針 確 定 済 額	34	39	10	58	23	81)
	(う ち当 年 度 予 定 処 分 額	26	87	23	81	3	06)
資本的収支	収 入	20	43	6	31	14	12
	う ち企 業 債 金	19	73	4	98	14	75
	う ち補 助 金		66	1	32	△	66
	支 出	49	09	51	28	△ 2	19
	う ち建 設 改 良 費	20	41	23	81	△ 3	40
	う ち企 業 債 償 還 金	13	41	13	87	△	46
	う ち地 下 鉄 会 計 出 資 金	13	43	11	90	1	53
	う ち一 般 会 計 納 付 金	1	34	1	20		14
差 引		△ 28	66	△ 44	97	16	31
資	金 剰 余 額	35	47	10	67	24	80
年 度 末	企 業 債 残 高	51	23	47	85	3	38

高速鉄道事業

1 予算概要

○ 経営健全化団体から計画より1年前倒しでの脱却を前提とした予算

- ・ 安全対策、お客様サービスの向上に努めながら、更なる増収増客の取組など経営健全化を着実に推進したことにより、平成30年度は、経営健全化団体から経営健全化計画より1年前倒しでの脱却を前提とした予算として編成

○ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた取組により、1日当たりお客様数は39万3千人

- ・ 地下鉄・市バスのネットワークを活用し、ひとと公共交通優先のまちづくりに一層取り組むため、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」等の取組の推進や地下鉄・バス一日券等の価格見直しを契機とした市バスから地下鉄への利用促進の取組により、前年度予算に比べ、15千人の増加を見込み、運輸収益は前年度比10億円の増収

○ 経常損益7億円の黒字を計上

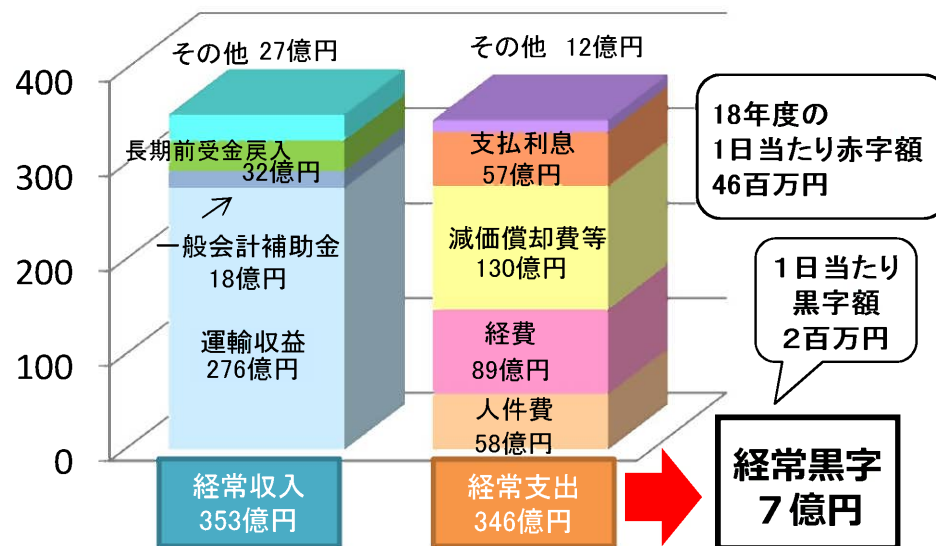
30予算 10億円突破

- ・ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた取組や駅ナカビジネスを積極的に取り組んできたこと等により、開業年度以来となる経常損益の黒字予算を計上（一般会計からの繰入金18億円を含む）

○ 依然厳しい経営状況

- ・ 企業債等残高見込は3,553億円に上り、経営健全化団体脱却後は累積資金不足が309億円からさらに増加
- ・ 今後、烏丸線の新造車両や両線の設備更新に多額の費用を要するなど依然厳しい経営状況

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	30年度予算	29年度予算	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 [1日平均]	58.0千km	57.0千km	1.0千km
旅客数 [1日平均]	393千人	378千人	15千人
経常損益	7億円	△18億円	25億円
現金収支 (償却前損益)	102億円	73億円	29億円
資金不足比率	—	21.4%	△21.4ポイント
年度末企業債等残高	3,553億円	3,656億円	△103億円

2 予算の重点

(1) 増収増客の取組

割引額 市バス⇄地下鉄 60円→120円
市バス⇄市バス 90円→120円

ア 増便によるダイヤの充実(30年3月実施)

(ア) 朝夕の通勤・通学時間帯における烏丸線の増便(4便)

(イ) 京阪京津線のダイヤ改正に合わせ、京阪車両の乗入れについて京都市役所前駅止に換え、太秦天神川駅行を増便(25便)

イ「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ!』」における公共交通を活用した取組の推進

(ア) 地下鉄駅周辺の観光・集客イベントの開催

・「明治150年」関連イベントの開催【新規】

・市バス90周年や民間事業者等と連携したイベントの開催【新規】

(イ) 駅ナカビジネスや、大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトなど、駅の魅力向上

(ウ) 地下鉄と市バスを組み合わせた観光案内ガイドマップや「太秦萌」などのキャラクターを活用したPRによる市バスから地下鉄への利用促進【新規】

京都駅前(2人)、コトチカ京都(2人)、
烏丸御池(1人)、北大路(1人)

(2) 安全対策等の推進

29～32年度で
6駅9箇所に設置

ア 安全対策

(ア) 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設による安全対策の強化(北山駅、丸太町駅)

(イ) 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化

(ウ) 障害のある方や高齢の方などすべてのお客様が快適に地下鉄をご利用いただけるよう、交通サポートマネージャーの資格を有する駅係員を養成【新規】

イ 環境への配慮

(ア) 地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進

(3) お客様サービスの向上

ア 乗継割引サービスの拡充

(ア) トラフィカ京カードの乗継割引額の拡充【新規】

イ ICカード利用の環境整備

JR西日本、阪急…30年3月

(ア) 地下鉄と他社とのIC連絡定期券の拡充

(イ) IC定期券(通勤・継続)を発行できる自動券売機を全駅へ拡大【新規】

ウ 障害のある方や高齢の方等へのサービスの向上

(ア) 無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置

(北大路駅、丸太町駅、五条駅)

全無人改札口に設置完了

(イ) 障害のある方や高齢の方などすべてのお客様が快適に地下鉄をご利用いただけるよう、交通サポートマネージャーの資格を有する駅係員を養成【再掲・新規】

エ 外国人観光客へのサービスの向上

(ア) 外国人観光客に対応するため市バス・地下鉄案内所に英語を話せるスタッフを常駐

(イ) 外国人観光客にもわかりやすい全線路線図への全面更新

(ウ) 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進

オトイレのリニューアル(鞍馬口駅、竹田駅)

30年度供用開始予定

カ 烏丸線車両の新造に係るデザイン懇談会の開催

(4) 経営健全化団体から1年前倒しでの脱却を前提とした予算及び将来を見据えた計画の策定等

ア 経営健全化団体から計画より1年前倒しでの脱却を前提とした経営健全化対策出資金を繰り入れない予算【新規】

イ 高資本費対策補助金(任意補助)の計上見送り

ウ 市バス事業からの出資金の受け入れ

エ 今後10年間の新たな「経営ビジョン」策定

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		30年度予算(A)		29年度予算(B)		差引増△減(A－B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経 常 損 益	営 業 収 益	301	99	292	23	9	76
	うち運輸収益	275	70	265	68	10	02
	営 業 外 収 益	50	84	42	48	8	36
	うち一般会計繰入金	18	23	8	30	9	93
	うち長期前受金戻入	32	25	33	80	△1	55
	収 入 計	352	83	334	71	18	12
	営 業 費 用	276	69	277	11	△	42
	うち人件費	57	31	58	09	△	78
	うち経費（動力費・修繕費等）	89	38	88	62		76
	うち減価償却費等	130	00	130	40	△	40
	営 業 外 費 用	69	27	75	81	△6	54
	支 出 計	345	96	352	92	△6	96
	差 引	6	87	△18	21	25	08
	現 金 収 支	101	76	72	61	29	15
純	損 益	6	87	△18	21	25	08
△	累 積 欠 損 金	△3,081	10	△3,108	01	26	91
資 本 的 収 支	収 入	356	52	370	21	△13	69
	うち企業債	309	24	261	84	47	40
	うち補助金	5	61	6	13	△	52
	うち出資金	40	43	101	21	△60	78
	（経営健全化対策出資金）		0	64	46	△64	46
	（市バス会計出資金）	13	43	11	90	1	53
	支 出	483	27	445	84	37	43
	うち建設改良費	117	13	105	98	11	15
	うち企業債等償還金	365	14	339	86	25	28
	差 引	△126	75	△75	63	△51	12
△	累 積 資 金 不 足	△317	44	△309	19	△8	25
資	金 不 足 比 率	—		21.4%		△21.4ポイント	
年	度 末 企 業 債 等 残 高	3,553	09	3,655	85	△102	76